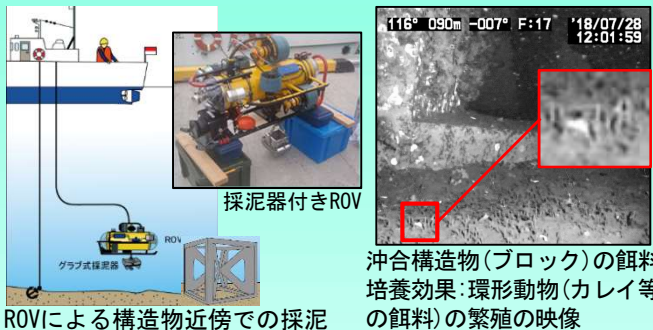
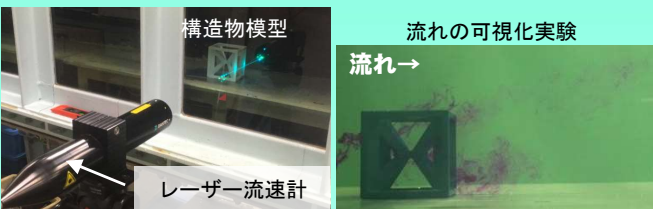


# C36-3 北方海域における沖合構造物による漁場環境改善技術に関する研究 (主要：R4～9年度)

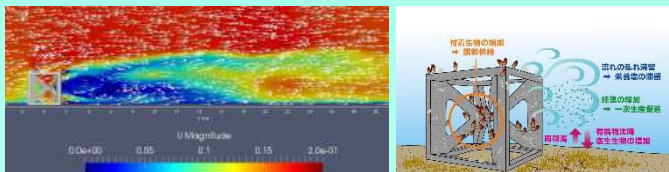
**北海道周辺海域の沖合構造物での調査**  
4期計画で開発した観測手法により大水深の構造物近傍の水質・底質・餌料環境を把握。



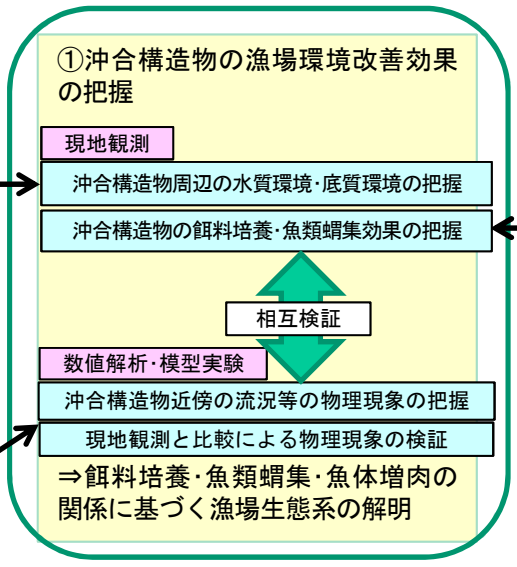
**水理模型実験・数値解析による物理現象の把握・検証**  
沖合構造物の漁場環境改善効果について、構造物近傍周辺の流況と粒子状有機物(餌料物質)の堆積メカニズムを把握した上で現地での効果を検証・評価。



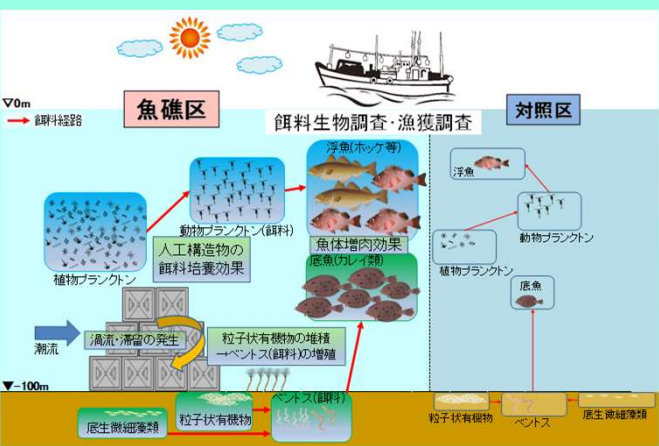
振動流水路とレーザー流速計による模型実験  
→構造物近傍の流況の把握・検証が可能



## 【研究内容】



**漁獲圧を考慮した漁場生態系解明のための調査**  
沖合構造物への餌料培養・魚類増殖・魚体増肉の関係を把握するため対照区を設定して餌料生物・漁獲調査・魚探調査を実施。これにより低次生物(プランクトン・ベントス=餌料)から高次生物(魚類=捕食者)までの餌料経路に基づき漁獲圧を考慮した漁場生態系を解明。



## 整備手法構築と技術指針への反映

現地観測・水理模型実験・数値シミュレーションを経て確認した沖合構造物の餌料培養・魚類増殖・魚体増肉の各効果を他機関(道庁・大学・他試験研究機関・民間企業)との共同研究を通じて既往研究(浅海域の人工魚礁の事例等)との比較検証も併せて整備手法を構築。

## 【達成目標】

- ①沖合構造物を持つ餌料培養効果等の漁場環境改善効果の解明
- ②北海道周辺海域での沖合構造物による漁場整備手法の開発



沖合構造物による漁場整備のイメージ